

はじめに

平成 28 年度は、第三期中期目標期間（平成 28 年度～平成 33 年度）の初年度に当たり、国立大学法人評価（第二期中期目標達成状況評価）を受け、教育（学部・研究科）および研究の全ての項目において標準以上（「期待される水準を上回る」、「期待される水準にある」、「改善、向上している」、「質を維持している」のいずれか）の評価結果であった。詳細については、大学ホームページ（ホーム » 大学について » 取組・計画 » 大学評価 » 国立大学法人評価）で確認頂きたい。

参照 URL <http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/policy-kokuritu.html>

平成 28 年度のトピックの内、本報告書では積極的に触れていない件を含め概要を振り返ると、4 月からのクォーター制導入（全学）、IMO 前事務局長關水康司氏の特別顧問（全学）および特別教授（海事科学研究科）就任、10 月には深江丸初の海洋底探査航海（鹿児島県鬼界カルデラ）の実施、11 月には奥野武久氏の寄附による奥野基金の創設があり、また、年度を通じて、海事科学部改組完成年度として海事科学研究科のカリキュラム改編および入学定員改訂の準備が進められた。また、12 月以降、新学部構想の検討が始まり、2 月には神戸大学戦略企画本部の作業部会として自然科学系新学部等設置準備WGが設置され、年度を超えて鋭意検討が進行中である。

また、平成 28 年度には、教員 3 名（4 月：深江丸機関長・特命教授、10 月：准教授（分析化学）、2 月：神戸大学テニユアトラックとして准教授（海域火山リスク科学）を新規採用した。

学外の海事社会に目を向けると、4 月に独立行政法人航海訓練所（NIST）が独立行政法人海技教育機構（JMETS）と統合し、5 隻の大型練習船の運航管理および本学 MET の船舶実習の一部は、新たに JMETS 航海訓練部として担われることとなった。

本報告書の目的は、平成 28 年度に行った諸活動の自己点検及び自己評価を行い、次期以降の活動計画の参考材料を提供することである。

第一編では、平成 28 年度に関わる年次計画 9 項目について、目標と対応状況及び自己評価を記載した。

第二編では、平成 28 年度の年次計画 9 項目の自己評価に用いた根拠データを含めた活動内容、即ち、学部における教育活動、大学院における教育活動、研究活動、国際交流活動、社会連携活動、高大連携活動の詳細及び諸活動を実践する上での各種委員会の活動と附属センター・施設の活動を記載した。

第三編では、平成 28 年度のトピックスとして、登録免許講習における実技講習の実施状況を示すと共に、3 年目を迎えた教育関係共同利用拠点としての練習船深江丸の利用実績及び 2 度にわたり実施された練習船深江丸を利用した海洋底探査航海について記載した。